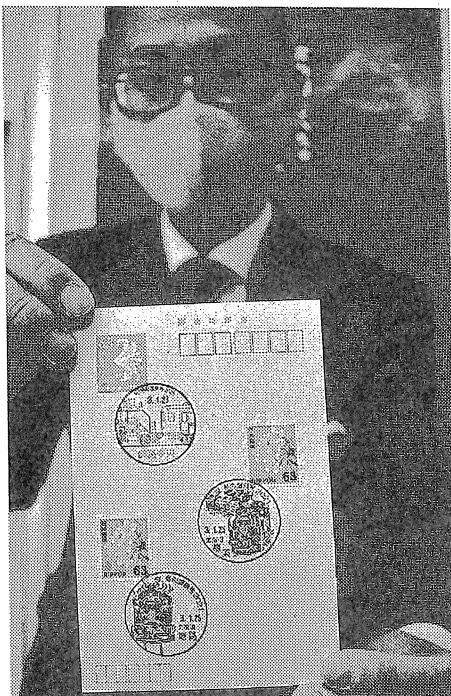


SL題材の小型印製作

標茶、塘路、釧路中央の3郵便局 期間限定で押印



SL冬の湿原号を題材にした標茶(中央)、塘路(下)、釧路中央(上)3郵便局の小型印

【標茶】JR北海道の観光列車「SL冬の湿原号」の運行に合わせ、標茶、塘路、釧路中央の3郵便局はSLを題材にした小型印を製作し、期間限定で押印している。鉄道ファンや小型印消印の収集家から人気を集めており、SLと標茶のPRにもなる。

路「標茶」たSL冬

の湿原号の15周年、20周年に合わせてオリジナル小型印を製作し、今回が3回目。今回は鉄道マニアでもあたる釧路市博物館の石川孝織学芸員が図柄の原案を考案した。塘路局のSLは白煙を上げる機関車の正面、標茶局は上から見下ろした客車も入る構図で、いずれも迫力満点。釧路中央局の小型印は釧路方向に戻る際、

が、同局は入口に運行予定や予約状況などの情報も発信。石栗征剛局長は「コロナで乗客も減っているが、地元でPRし、乗車す

ICT活用の授業説明

浜中町内 8小中学 オンラインで研修

【浜中】町教育研究所(所長・中村研自町立散布中学校校長)は3日、町役場と町内8小中学校をオンラインで結んだ研修集会を開いた。道教大附属釧路中学校の赤本純基教諭が情報通信技術(ICT)を活用した授業について講演した。町では、今月末までに町内全小中学校の児童生徒と教職員にタブレット端末を整備。研修集会は本格導入を前に教職員のスキルアップを図るのが狙い。

ウェブ会議アプリ「Zoom(ズーム)」を使い、

町内の教職員約100人が



オンラインで各校を結び行われた
研究集会

(戸田英吾)

る地域住民が増えれば」と話している。押印は標茶局と塘路局が26日、釧路中央局が28日まで。

参加した。赤本教諭は自身も「新型コロナウイルス感染症対策に伴う休校措置などをきっかけに、今年度から本格的にICTを活用した授業に取り組んでいる」と説明。実際の授業事例を挙げながら「授業の指導目標を達成するためのツール。児童生徒も使いながら覚えていく。『まず使ってみよう』が大切」と説いた。

- 同研究所で使った研修「学習用具と」
- 根室市
- 【北方四島】
- ▽わいわいク
- 時
- 【青少年学
- 護初任者研修
- 時
- 中標津町
- 【経済セン
- Cジュニア科
- 午後1時
- 【町総合体
- 20年度 桐
- バレーボール
- 前9時
- 標津町
- 【体育館】
- バレーボール
- 時

根釧



(上)

実入り34点の予
入賞者の入
介する。(山本繁寿)

「クロー」

